

国語科

谷口 仁

橋本 正恵

松原 美佳

助言者 折川 司（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

昨年度より本校では、研究主題を「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成」と定め、Society5.0という新しい社会を見据え、実社会とのつながりのある授業実践やSTEAM教育の実践を試みてきた。その取組の中で、より実社会の問題解決場面に近いプロジェクトを作り出す手立てとして、STEAM教育のAをLiberal Artsと捉えることとし、STEM領域以外の教科等も協働して資質・能力の育成に当たることができるよう共通理解を図り、全ての教科等が連携して実践に取り組んできた。

さらに、本年度より研究の副題が「新設教科『創造デザイン科』の提言とSTEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトの作成を目指して」となった。これは実社会とのつながりをさらに意識し、複数の教科で多面的・多角的に学習を行い、創造的な問題解決能力を育成することをねらいとしたものである。教科の枠にとらわれない学習課題を解決していくためには、自ら考え、伝え合う力を養うことがこれまで以上に重要になる。このことは人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う国語科の目標と合致しており、本校研究において国語科の果たすべき役割であると考えている。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

本年度、「本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力」を以下のように設定した。

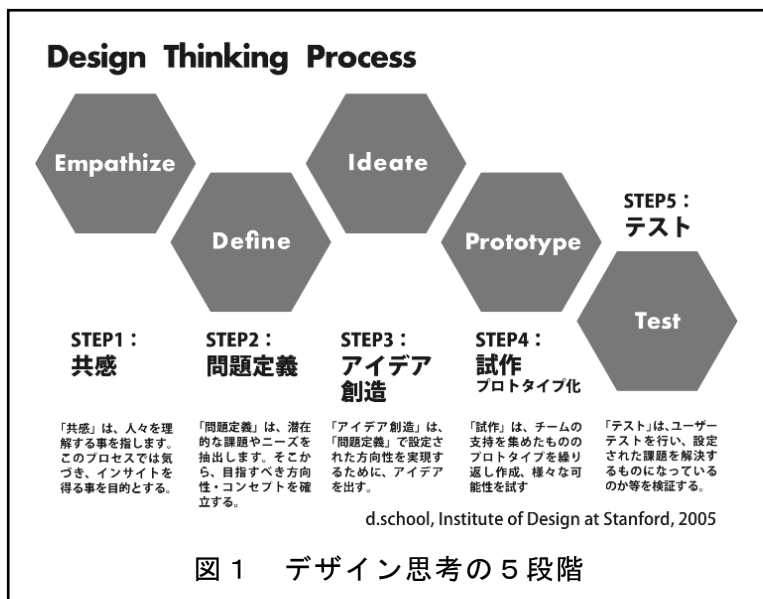
表1 本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力

デザイン思考	文章や情報を読み解く力
イノベーターのマインドセット	持続可能な社会を志向する倫理観・価値観
より良く生きようとする態度	対話する力
多様性の尊重	論理的思考
実体験を通じて醸成される感性	批判的思考

これら十の資質・能力について考察を行った。『中学校学習指導要領』前文には、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示されている。このことから、「より良く生きようとする態度」「多様性の尊重」「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」については、全ての教科で育成を目指す資質・能力と言える。また、「対話する力」は国語科の内容の一つである〔思考力、判断

力、表現力等]「A話すこと・聞くこと」において、「文章や情報を読み解く力」は「C読むこと」において育成できることは、当然のことと言える。さらに、「実体験を通じて醸成される感性」「論理的思考」「批判的思考」は、3領域いずれにおいても、あるいは複合的に育成し得る資質・能力であると考えた。このことは、『中学校学習指導要領 国語』（以下、指導要領）に見ることができる。例えば、指導要領第3学年には「B書くこと」においても「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」「自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること」「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」が示されている。これらと同様のことは、他学年、他領域においても見ることができる。※下線は執筆者による

このように考えを進めた結果、「デザイン思考」及び「イノベーターのマインドセット」の育成に、国語科としてどのように関わっていけるのか、という点が昨年度当初課題として残った。この課題を解決しようと試みた中で、「デザイン思考」は「B書くこと」において育成できるのではないかとの仮説にいたった。「B書くこと」における学習では、読み手を意識して文章を整えたり、読み手の助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を見出だしたりする。このような学習活動や学習過程は、デザイン思考の5段階（図1）に当てはめることができそうである。



そこで、今年度は「デザイン思考」の育成を、本校国語科の研究の中心に据えることとした。また、昨年度は教科内での検討・分析を進めたが、今年度はSTEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトにおける検討を行う。どの単元で、どんな教材で何を考えさせ、どのようにアウトプットすることで、「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」を効果的に育成することができるか研究していく。育成する資質・能力をプロジェクト全体で測っていくことを見据えた評価など、教科等連携の在り方を探っていきたい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

1年「祈りと願いの企画展」

これまで美術科と連携して、物語文から感じ取ったことを作品として表現する活動を継続的に行ってきた。今回は社会科、美術科と連携して、文化や作品にこめられた人々の思いを読み取り、作品として表現・展示する教科等横断プロジェクトに参加し、国語科では作品の解説文を書こう」という単元を設定し、「作り手の思いを、より明確に伝えるための解説文を書く」学習活動を行う。

「根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すこと」をねらいとし、互いの文章を助言し合い、交流を通して解説文の改善を図る。このとき、「展示を見る人により深く作品を理解してもらおう」という目標を明確にして、文章を分析するための観点や、使う言葉や文章の構成を考え、解説文を再構築させることで「問題を解決するた

めに、認識されていない内なる課題を見出し、それを解決するための最適な手立てを考えていく」デザイン思考の育成を図りたい。また、展示の鑑賞者という形で読み手を明確にして、文章を考える上での視点や表現方法、互いの文章を助言するうえでの観点等の参考とし、目的に応じた書き方を考える機会としたい。

2年「15秒で分かる石川県」

本プロジェクトは、社会科の地域調査の学習との横断的な学習である。社会科では、中部地方に関する学習を踏まえ、石川県の現状や良さについて学習を行う。そのまとめの段階を引き継いで、国語科では単元「15秒広告で石川のよさを伝えよう」を設定し、石川県の良さを伝える15秒広告の作成を行う。これまで、「書くこと」の学習では、自分の考えを文章にする活動を重ねて行ってきた。今回は、15秒間と短い時間を設定することで、インパクトのある分かりやすい表現について、理解を深める機会としたい。中学生に人気のある、SNS等の投稿動画では、数年前より15秒の短時間のものが注目を集めている。一見、短いように思える15秒間でも、伝えたいことを盛り込むことができることを知り、より人の目を引き、考えが伝わりやすい表現について考えることをねらいとした。また、日常生活で目にすることの多い、デジタルサイネージの形式を取り入れることで、より実生活で活用ができる表現について考えられる活動になることをねらった。

本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成に関しては、単元全体を通して、デザイン思考の育成をねらっている。伝える相手を意識して、文章を整え、試行錯誤して完成に迫る流れの中で、目的に応じた表現について考える学習を構成した。

3年「俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう」

本プロジェクトは、国語科、数学科、美術科、英語科との横断的な学習である。昨今、外国人が日本語や日本の文化を取り入れたTシャツを着ているのを目にすることは多い。しかし、我々日本人からするとなぜそれを着ているのか、Tシャツにデザインされた言葉を見て首をかしげることもある。そこで、誰にとっても「かっこいい」と思えるようなTシャツを制作し紹介する学習を通じて、日本の素晴らしさを再確認させ、我が国の伝統・文化を愛する心情を育みたいと考えた。本校の資質・能力においては「多様性の尊重」の育成を図りたい。

国語科では、「俳句の可能性」「俳句を味わう」の教材を用い、まず俳句の基本事項と鑑賞の仕方について学習を行った。美術科でTシャツのデザインをすることに意識付けをするために、選んだ俳句のイメージカラーを明示させた。また鑑賞文には、英語科で外国人にTシャツをプレゼンテーションするというゴールに向けて、日本の伝統・文化や日本人のアイデンティティを踏まえ、選んだ俳句について海外の人に知って欲しい魅力をまとめさせた。選んだ俳句は、現代の日本人でも共感できる句であったり、現代の日本人であっても共感しづらい古き良き日本の原風景や感じ方が詠まれていたり、逆に時代や国に関係なく心に響く句であったりする。このような魅力を自分たちでデザインしたTシャツを通して、外国人にプレゼンテーションするための一助となるよう、鑑賞文を書かせた。国語科の学習に続き、数学科では「標本調査」により外国人の趣味嗜好や実態の把握をさせ、美術科で俳句の魅力が伝わるようなデザインをさせ、英語科ではでき上がったTシャツを外国人留学生に紹介を行う。

1年 単元名「作品の解説文を書こう」 プロジェクト名「祈りと願いの企画展」

単元計画（3時間扱い）本時は3時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	<p>■解説文の特徴を理解する。</p> <p>①学習の見通しを持つ。</p> <p>②美術作品の解説文を読み，背景や観点など解説文の要素を確認する。</p> <p>③作品について最も伝えたい内容を決め，その表現を考える。</p>	<p>○事象や行為，心情を表す語句に着目し，語彙ノートに書き留めている。【知】</p>	<p>「デザイン思考」</p>
	2	<p>■解説文を書く。</p> <p>①解説文の構成を考える。</p> <p>②解説文の下書きを書く。</p> <p>③読み手の立場に立って文章を整える。</p>	<p>○学習課題に沿って，自分の思いが伝わる文章を書こうとしている。【態】</p>	
	3 本時	<p>■解説文を読み合い，お互いに助言し合う。</p> <p>①解説文のねらいを確認し，助言すべき内容をつかむ。</p> <p>②解説文を読みながら，作品を鑑賞する。</p> <p>③鑑賞した内容を基に，助言し合う。</p> <p>④学習を振り返る。</p>	<p>・作品のみを鑑賞したときと，解説文とあわせて鑑賞したときの印象を比較し，その効果やねらいの達成について考えるよう促す。</p> <p>○読み手からの助言を踏まえて，自分の解説文のよい点や改善点を見いだしている。【思】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>
2	後日	<p>①解説文を清書する。</p> <p>②解説文を作品とともに展示する。</p> <p>③鑑賞会を行い，プロジェクトを通しての振り返りを行う。</p>	<p>○読み手に伝わる解説文について考え，自分の思いや意図を伝えようとしている。【態】</p>	

実践事例

教科名「国語科」・学年「1年」

授業者	谷口 仁	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
祈りと願いの企画展		社会科「身近な地域の歴史」 美術科「祈りと願いの造形」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「デザイン思考」		読み手からの助言を踏まえて、自分の解説文のよい点や改善点を見いだすことができる。 【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科，美術科の学習を経て制作・展示する「祈りや願い」を主題とした作品に，自分の意図を伝えるための解説文を書く活動を行う。 ・この学習では「読み手に与える印象や効果を基に助言や推敲を行う」ことをねらいとしている。社会科，美術科で学んだ各時代の人々の思いや意図など，各教科で学んだことを基に解説文として表現し，読み合う際の規準とする。これにより複数の教科等の資質・能力や見方・考え方の活用を図る。また，読み手の印象や求めている情報を基に，自分の表現を見直し，改善方法を考えていくことで「デザイン思考」の育成を目指す。 ・展示の解説文という目的を踏まえた文章表現や構成の工夫まで考えさせたい。そのために，実際の展示解説などとの比較を行い，その印象や特徴についても着目させる。 			
本時の授業のねらい			
鑑賞する人に与える印象を考えて，解説文を読み合いお互いに助言し合う。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			3
鑑賞する人に与える印象を考えて，解説文を読み合いお互いに助言し合おう。			
2. 解説文のねらいを確認し，助言すべき内容をつかむ。			7
<ul style="list-style-type: none"> ・解説文が作り手の意図やテーマ，見どころなど，自分の意図を明確に伝えるためのものであると同時に，鑑賞する人に与える印象や鑑賞者が欲する情報を踏まえているかどうかを観点として確認する。そのための表現や文章構成ができているかをあらかじめ押さえておく。 			
3. 解説文を読みながら，作品を鑑賞する。			15
<ul style="list-style-type: none"> ・作品のみを鑑賞した時と，解説文と合わせて鑑賞した時の印象を比較し，その効果やねらいの達成について考えるよう促す。 			
4. 鑑賞した内容を基に，助言し合う。			20
<ul style="list-style-type: none"> ・解説文によって印象が変わった点や理解が深まった点について話し合い，書き手の意図が伝わったか，あるいは伝えるためにはどう改善すべきかを助言し合うよう促す。 			
5. 本時の振り返り。			5
<ul style="list-style-type: none"> ・助言を基に自分の文章について考えることができたか，鑑賞者の視点で解説文の内容や表現について考えられたか，適切な助言ができたか等について，活動を振り返り，自己評価する。 			

2年 単元名「15秒広告で石川の良さを伝えよう」プロジェクト名「15秒で分かる石川県」

単元計画（4時間扱い）本時は3時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
	事前	気になる「キャッチコピー」を探し、 一人一枚の画像をクラウドで共有する。		
1	1	■広告の特徴や意味について知り、伝えたいことを整理する。 ①デジタルサイネージやキャッチコピーなどの特徴について知る。 ②石川県について、自分が伝えたいことを整理する。	○情報と情報との関係に注意して、伝えたいことを整理している。 【知】 ・商用のデジタルサイネージを提示し、その特徴を理解させる。 ・単元の学習の見通しを持たせる。	「デザイン思考」
	2	■15秒広告（スライド）を考える。 ①伝えたい内容を15秒で伝えられるような文章を考える。 ②2～3枚のスライドにまとめる。	○目的を意識して、自分の考えが伝わるように表現の工夫をしている。【思】 ・キャッチコピー、ボディコピーを思い出させ、読む人の目を引き、伝えたいことを伝えるための文章になるよう意識させる。 ・今回は、言葉の表現に重点を置くことを伝え、無地のスライド2～3枚で表現することを伝える。 ・文体、表現技法、語句などを工夫し、読み手を意識した表現になるよう考えさせる。	
	3 本時	■作成した15秒広告（スライド）を、班で紹介しアドバイスし合う。 ①班員の広告を見て、アドバイスをする。 ②アドバイスを参考に推敲をする。	○目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章を整えている。【思】 ・実際の広告の場面を意識して、読み手への伝わりやすさについて、考えさせる。	
	4	■完成した15秒広告（スライド）を班で発表し、代表作品を決める。 ①「目を引いたか」「内容が伝わったか」の二点について、相互評価をする。 ②完成した作品を見て、学習を振り返る。	○作品の共有を通して、自分の考えが伝わる文章を整えようとしている。【態】 ・友人の作品のよい点や改善点を考えながら、自分の作品について振り返るよう促す。	↓
	後日	校内二か所の電子掲示板を用いて、クラスの代表作の15秒広告（スライド）を公開する。		

実践事例

教科名「国語科」・学年「2年」

授業者	橋本 正恵	授業クラス	2年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
15秒で分かる石川県		社会科「身近な地域の調査」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「デザイン思考」		目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章を整えることができる。 【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習「身近な地域の調査」で学んだ「石川の良さ」について、後輩（中学校一年生）に伝わるような文章（15秒広告）を作成する。 近年、見かけることの多くなったデジタルサイネージの形式を採用し、「15秒でわかる石川県」の文章（広告）を作成する。キャッチコピーやボディコピーを取り入れ、どのような表現にすれば、読み手の目を引き、読み手に自分の考えが伝わりやすくなるのかを検討、試行錯誤し、作品を完成させる。クラスの代表となった作品は、校内の電子掲示板を使い、実際にデジタルサイネージとして、掲示する。文章（広告）が生み出す効果を実体験する機会としたい。 社会生活で活用できる文章表現について、作成を通して、理解を深める。 			
本時の授業のねらい			
作品の共有を通して、「読み手の目を引く」「考えが伝わる」の二点について、互いにアドバイスをを行い、自分の考えが伝わる文章を整える。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			5
読み手の「目を引く」「考えが伝わる」表現を目指して、アドバイスし合い、推敲をしよう			
2. 「15秒広告」を紹介し、アドバイスをし合う。			25
<ul style="list-style-type: none"> 5人班を作る。 発表者はタブレットの画面に、「15秒広告」を映し、作品を紹介する。 見ている人は、読み手の「目を引いているか」「考えが伝わっているか」の二点について、アドバイスを行う。 5人分のアドバイスの終了後、班員すべての作品を比較して、どのような広告が、より目的を達成しているのかについて、考えを出し合う。 各自の作品についての、感想やアドバイスをワークシートに記入する。 			
3. アドバイスを参考に、より良い「15秒広告」になるように推敲をする。			15
<ul style="list-style-type: none"> タブレットを用いて、推敲を行う。 どんな効果をねらって、どのように改善をしたのかをワークシートに記入する 			
4. 本時の振り返り			5
<ul style="list-style-type: none"> 読み手の「目を引くポイント」, 「考えが伝わるポイント」について、考えたこと, 分かったことをまとめる。 完成に向けて、工夫したことをまと 			
「まだ」15歳？ 「もう」60歳？		夢を叶えるのに、 年齢なんて関係ない!!	<p>金沢市では若者・シニア 年齢関係なく、 起業・開業 を考えている方々を 支援いたします。</p> <p>あなたに合った支援を。 夢と一緒に叶える 金沢市</p>

3年 単元名「外国人に紹介したい俳句の世界」

プロジェクト名「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」

単元計画（5時間扱い）本時は5時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	■俳句についての理解を深める。 ①プロジェクトについて理解する。 ②「俳句の可能性」の5句について、俳句の基本事項と、情景や心情の読み取り方について理解する。	○俳句の形式や表現技法などについて理解し、俳句を味わっている。【知】 ・外国人が日本語の T シャツを着た様子を示し、日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためのプロジェクトであることを伝える。	
	2	■俳句に詠まれた情景や心情を読み取る。 ①「俳句を味わう」からグループで1句を選び、言葉や表現に注目し、情景や心情を読み深める。 ②読み取った情景や心情を踏まえ、選んだ俳句を紹介するスライドを作成する。	○俳句に表れたものの見方や心情について考えながら俳句を読み、考えたことを言葉を選びながら、進んで伝えようとしている。【態】 ○語句の意味を理解したり、情景や心情を喚起する効果的な語句に着目したりしている。【知】 ・作者や俳句について、書籍やインターネットを使い調べさせグループで読み取りを共有させる。	
	3	■選んだ俳句について紹介する。 ①選んだ俳句について、基本事項（作者、季語、表現技法）と読み取った情景や心情についてスライドを使って紹介する。	○語句の選び方や表現の仕方に着目して俳句を読み、評価している。【思】 ・俳句の特徴をイメージカラーで表現させ、T シャツ制作を意識付けさせる。	
	4	■俳句を短冊に書く。 ①行書と、行書に調和する平仮名で俳句を書く練習をする。 ②体裁を整えて、短冊に筆ペンで書く。	○文字の大きさ、配列などについて理解し、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を意識し書いている。【知】 ・文字の大小や配置なども考慮することが全体の調和につながることを伝える。	
2	5 本 時	■俳句をグループで選び、読み取ったことをグループで共有し、鑑賞文に書く。 ①T シャツにデザインして外国人に紹介したい句を探し、読み取った情景や心情について、グループで交流する。 ②外国人に紹介することを意識し、鑑賞文に書く。	○俳句に表れたものの見方や心情について考えながら俳句を読み、考えたことを言葉を選びながら、進んで伝えようとしている。【態】 ○俳句を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。【思】 ・感じたことや想像したことだけではなく、そう感じた表現や特徴を明示させる。 ・昔の日本の良さか、現代にも引き継がれている日本の良さか、あるいは今もある日本の良さか、万国共通の良さかを考え、鑑賞文にまとめさせる。	「多様性の尊重」

実践事例

教科名「国語科」・学年「3年」

授業者	松原 美佳	授業クラス	3年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう		数学科「標本調査」 美術科「Tシャツ文字のデザイン」 英語科「Project 2」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「多様性の尊重」		俳句を詠んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> 日本の良さが伝わる俳句をTシャツのデザインで外国人に伝えることを意識させ、俳句から情景や心情を読み取らせていきたい。そのために、語句の選び方や特徴、表現技法等に注目させる。 本プロジェクトは、まず国語科がTシャツのデザインの題材となる俳句の学習を行い、次に数学科が外国人の嗜好や日本に対するイメージを標本調査において明らかにし、美術科が国語科と数学科での学習を踏まえTシャツのデザインをし、英語科がデザインされたTシャツを外国人にプレゼンテーションする。単なる俳句の読み取りではなく、情景や心情の読み取りを通じて改めて感じた日本の素晴らしさをデザイン化し紹介するというゴールを設定することで、相手意識を持って俳句を深く読み取り、鑑賞文を書くことができると思う。 			
本時の授業のねらい			
俳句から読み取った情景や心情をグループで共有し、その俳句から日本の良さや日本人のアイデンティティについて考えを深め、鑑賞文を書く。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			2
日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためにTシャツのデザインとしてふさわしい俳句を探し、その鑑賞文を書こう。			
2. Tシャツにデザインして外国人に紹介したい句を、書籍やインターネットを活用し、グループで1句選ぶ。 ・複数の書籍などを読み、自分の感じ取った情景や心情に近いものを探すように伝える。			8
3. 情景や心情について、グループで読み取った交流する。 ・感じたことや想像したことだけではなく、そう感じた表現や特徴を明らかにして、読み取りを交流させる。			15
4. 外国人に紹介することを意識し、鑑賞文を書く。 ・外国人に紹介するにあたって、古き良き日本の良さなのか、現代日本にも残る日本の良さなのか、あるいは日本人のアイデンティティなのか、外国人にも共感できる日本の良さなのかを考え、鑑賞文を書くことを意識させる。			23
5. 本時の振り返り ・この時間に鑑賞文を書けない場合は、夏休み中の宿題とする。			2